組　　番　名前

教科書 P.172～P.173

15 歴史　対等な条約を求めて

学習の目標：

◎列強の植民地拡大

② 1910年代までに植民地になってない国を挙げよう。

① 風刺画のタコは何を表しているのだろう？
【国名：　　】

①　　・・・列強が海外へ進出し、資源や市場を求めて植民地拡大をする考えのこと。

◎条約改正への道のり

◇右の資料から、日本の欧化政策を欧米諸国はどのように見ていたのだろう？

年	交渉の歩み・社会の状況
1882～7年	欧米人を鹿鳴館に招くなど欧化政策を行う。
1886年	ノルマントン号事件→【A　　】の廃止を求める。
1894年	【B 人物　　】がイギリスと交渉しAの廃止に成功。
1911年	【C 人物　　】が関税自主権を完全に回復。

◎条約改正はなぜ成功したのだろう？

コメントの追加 [孝浩1]: Q 資料1から1910年代の世界地図を見て、欧米諸国の植民地になってない国はどこにあるだろう？

Q タコの絵を見せる
・タコに見立てられた国を記入し、そのように描かれた理由を説明しよう。

タコ→ロシア
タコは英語でデビルフィッシュ
悪魔として恐れられていた。

コメントの追加 [孝浩2]: Q 列強がなぜ植民地を増やそうとしたのかについて、確認させる。
以前の産業革命のプリントを振り返らせる。

コメントの追加 [孝浩3]: Q 日本の欧化政策を欧米諸国はどのように見ていたのだろう？
A 欧米との関係を求めて条約改正の努力を続けていた。鹿鳴館に招いて舞踏会を開くなどしたが、外交政策につながらなかった。
表面的な政策に批判が寄せられた。

では、外交政策がどうなったのか見ていこう
→年表整理

Q 条約の改正がなぜ成功したのかについて考えさせる。
世界の情勢が大きくかかわることを押さえる。
A はじめ、英国は条約改正の難関であったが、ロシアが東アジアへの進出の動きを見せ始めるとロシアを警戒して日本に友好的になった。

◎まとめ
対等な条約が実現したことには、どんな大きな意味があるだろう？